

## 要旨

**研究目的：**集中治療室に入室したステージ C にある慢性心不全患者に対する看護師の意思決定支援の現状を明らかにすることを目的とした。

**研究方法：**ステージ C の慢性心不全患者のケア経験がある集中治療室に 5 年以上勤務する看護師を対象とし、インタビューガイドを用いて半構造化面接を実施した。内容を IC レコーダーに録音し逐語録を作成した。そして、研究目的に関連する文節を抽出し、可能な限り研究対象者の言葉を用いて質的帰納的に分析した。

**結果：**研究対象者は 7 名(平均年齢 30.5 歳、平均集中治療室経験年数 8.6 年)であった。意思決定支援に対する価値観、実際、困難とその対処が明らかとなった。ステージ C の慢性心不全患者の意思決定支援に対する看護師の価値観は、【ステージ D への進行を見据えて、患者の希望する治療やどのような最期を迎えたいかをあらかじめ明確にすることが大事だと思う】、【心不全を繰り返さないように、患者や家族に看護師が教育をしていかなければいけない】、【患者の思いや希望、価値観を尊重するのが大事だと思う】などの 6 カテゴリが抽出された。意思決定支援の実際は、【患者が自分自身で心不全が悪化しないような生活を送れるように教育をする】、【患者本人や家族の思いを聴く】、【病状説明に同席して、患者と家族の理解を確認する】、【治療の選択肢や今後の状況について意思や看護師から情報提供する】、【状態が悪化したときにどうしたいか、最期はどのように過ごしたいかを患者や家族に聞く】、【心不全はだんだん悪くなり亡くなってしまう可能性のある病気であると、言葉を選び患者に言う】などの 11 カテゴリが抽出された。困難は、【どうしても心不全を繰り返してしまう患者に生活や行動を変えていけるように支援していくのは難しい】、【外来や病棟での患者の心不全のとらえ方や治療の選択肢についてどう理解しているかは、記録からは探すことができず、わからない】、【患者の治療に対する意思を聞くことが出来ないときや、患者が意思を表出できないと意思決定支援は難しい】、【今後悪くなった時にどうするかという聞きづらいことを聞かないといけないから話をするタイミングが難しい】などの 6 カテゴリが抽出された。そして対処は、【意思決定支援について専門性が高い看護師にアドバイスを受け、対応を依頼する】などの 2 カテゴリが抽出された。

**結論：**集中治療室に入室した慢性心不全患者に対する看護師の意思決定支援は、看護師の価値観が基盤となっていた。そして、患者や家族の思いを聴き、意思決定支援の必要性を判断し、セルフケア、ステージ D・終末期、治療・ケア選択について支援するというプロセスが明らかとなった。